

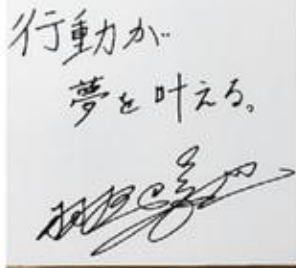
# 未来ノート

-202Xの君へ-

## カヌー はねだたくや 羽根田卓也



④2016年リオデジャネイロ五輪で銅メダルを獲得した色紙には「行動が夢(ゆめ)を叶(かな)える」とメッセージを書いてくれた



### 遊びの中で育った行動力

羽根田卓也(30)がカヌーの練習を始めたのは小学3年生の時だった。同じころ、それより大切なものがあった。「秘密基地」だ。放課後、愛知県豊田市の自宅に近い竹林に友達と集まる。ゴミ捨て場から引張ってきた車の座席がソフ

ア代わり。平日のほぼ毎日、を過ごした秘密基地での時間は、何より優先だった。「土日はオヤジと兄貴に川へ無理やり連れていかれる感じで、ここで遊べないからカヌーなどやってみようか、と思っていた」話しているうちに、した

いことを思いつく。「大冒険」と言うのは、5年生のころに決行した猿投山への自転車の遠出だ。豊田市中心部から北部の山のふもとまで直線距離で十数キロ。練習のない休日、道を尋ね、外れたチェーンを直しながら、片道約2時間。「今なら30分か40分の距離。自転車も小さく、体力もないから、すごく速かった記憶がある。周りにチャリで猿投山に行ったやつはいなかった。一番、僕は行動範囲が広がった」。自慢げに振り返る。

2016年リオデジャネイロ五輪のスラロームカナディアンシングルで、日本カヌー界初の銅メダルをつかんだ。転機は、高校卒業後に強豪国スロバキアへひとりで移り住んだことだ。

日本を飛び出す決断をした気持ちは、秘密基地で遊びに夢中だった小学生時代と似ている気がするという。「やりたいことをただ探し続ける、不純物のない思い。子供の行動に大義名分なんていらないでしょ。自分で考え、仲間を集め、何かを作り、どこかへ行く。そうした物おじしない行動力が培われたのかどうか、分かんないですけど」

日が暮れる前には帰宅するとか、遠出では体力や時間を考え引き返すタイムリートを考えるとか、「叱られないように」と思いながら遊びの中で分別も学んだ。「遊びすぎだと怒られた記憶はないですね。すごく幸せな子供時代を過ごせたと思っています」

秘密基地と冒険

さんまさん憧れ

やる気スイッチ

人気のその先に

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお取り扱いしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。

©朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

(松本行弘)